

もくぞうしょうかんのんぼさつぎぞう
木造 聖 観音菩薩坐像

種 別	彫刻
指定年月日	令和5年6月1日
所 在 地	小松市栗津温泉（大王寺）

大王寺は寺伝により泰澄^{たいちょう}の開山と伝えられる。本像は当寺の本尊の聖観音菩薩像で、現在は秘仏とされている。右手は胸前で第一・第二指を捻じ、左手に持つ未敷蓮華^{みふれんげ}を開こうとする姿で、密教の観音菩薩の姿である。

作風として、胴に対して幅広で厚い脚部が特徴である。この特徴は十世紀以前の作例に認められるもので古様であるが、細めの胴部や衣文線^{えもんせん}の彫口などから、より新しい時期の制作が考えられる。地髪の毛筋彫りに着目すると、十世紀ではまばら彫りが多いのに対して、十二世紀後半になると毛筋彫りとする作例が増加してくるとみられることなどから、平安時代後期の、十二世紀ごろの制作と考えられる。よって脚部の古様さは、本像が造られる前に祀られていた古像の影響を残すものとみることもできる。

本像には、温泉地を見守る観音像としての文化的な意義もあり、現状の保存状態に鑑み、今後のさらなる保存が望まれる。

